

孤育てを解消するための祖父母力を活用するプログラムの開発

育児ソーシャル・サポート研究会(岡山)

活動の目的

現在、子育て中の親子を対象にした各種プログラム等が実施されている。しかし、母親の育児への負担感は解消されず、子育ての孤立化(孤育て)による課題がある。新たな子育て支援策として、祖父母の積極的な育児参加が求められている。ただ、その重要性にもかかわらず県内の子育て支援拠点における祖父母参加型のプログラム開発は進んでいない。本研究は、子育て支援拠点施設と大学教員とが協働した祖父母参加型の子育て支援プログラムの開発を目的とする。

活動の内容及び経過

- ①県内子育て支援拠点における祖父母支援プログラムの分析。
- ②県内子育て支援拠点を利用する親の祖父母支援に関する意識調査の実施・分析
- ③子育て支援スタッフ研修会の実施(7月・1月の全2回)
於：NPO法人きよね夢てらす
- ④子育て観ギャップ解消講座の実施(9月・1月の全2回)
於：岡山県立大学
- ⑤祖父母支援プログラムの検討(9月・1月の全2回)
於：岡山県立大学

活動の成果・効果

1. 子育て支援拠点における祖父母支援プログラムの現状と課題

- (1) 祖父母支援の必要性：岡山県内の地域子育て支援拠点176箇所を対象に質問紙調査を実施し、回答数は55ヶ所(回収率31.25%)であった。祖父母支援の必要性は、「とても必要」25.5%、「やや必要」36.4%、どちらでもない23.6%、「無回答」14.5%となった。
- (2) 祖父母支援プログラム：三世代交流、わらべ歌、祖父母とのふれあい、製作遊び等。
- (3) 実施課題：①参加人数確保の困難性、②スタッフの専門性が不十分、③関係機関との連携の困難性等。

2. 祖父母の育児支援に関する子育て世代の親の意識調査

- (1) 育児支援希望：地域の子育て支援拠点を利用する子育て家庭を対象に質問紙調査を行い、回答が得られた56家庭の親(回収率37.5%、内訳：母親56名、父親49名)の祖父母支援に関する意識について分析した。祖父母からの支援を希望する父親は75.6%、母親は85.5%に対し、希望しない父親は20.4%、母親は12.7%であった。祖父母に期待する支援は「子どもの話や遊び相手」「子どもに自分の知識や知恵を伝える」等、子どもとのかかわりを期待する回答が得られた。



- (2) 支援が得られない理由：遠方、同居していない、体力面、仕事等多忙、負担が大きい、自分のやり方で子育てしたい、預けたくない、子育て観が合わない等。

3. 祖父母世代と両親世代の子育て観ギャップ解消講座の実施

- 第1回(9月)：母親のイライラの原因や子育て意識の変化について
- 第2回(1月)：祖父母に孫を預けるメリットについて、情報交換会の実施

4. 子育て支援スタッフとの研修会・プログラムの検討

- (1) 子育て支援スタッフとの研修会概要：
 - ①岡山県内子育て支援拠点における祖父母支援実施状況と課題
 - ②子育て世代間ギャップに関する現状と対応策
- (2) 祖父母支援プログラムの検討会概要：
 - ①祖父母だけが参加するプログラムは親も祖父母も抵抗感がある。親側の意識を改善し、祖父母との交流の「きっかけづくり」が有効。
 - ②核家族世帯が多く支援が必要。地域の元気な祖父母世代が参加し、多世代交流の機会が有用。
 - ③祖父母世代と親世代が互いの思いや価値観に触れる機会づくり。専門家の講座が有効。

今後の課題と問題点

今回の研究課題は次の3点である。

- ①核家族世帯の家庭と祖父母世代との交流の場づくり
- ②祖父母世代と親世代の子育て観ギャップ解消講座の継続的实施
- ③祖父母が参加できる三世代型の子育て支援の実現

- 代表者：柏まり ●所在地：総社市窪木
- TEL：0866-94-2194 ●E-MAIL：kashiwa@fhw.oka-pu.ac.jp
- URL：http://www.m-kashiwa.com/
- 設立年：2016年 ●メンバー数：9名